

【鶴居村】

校務 DX 計画

文部科学省設置の「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」が示した「教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して」の提言内容や、文部科学省が示した「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト（学校設置者用）」による自己点検結果等を踏まえ、教育の情報化を一層推進するため、本村の地域性も勘案しつつ、次の事項を中心に取組を進める。

記

1 校務系・学習系ネットワークの統合

- 本村では現在、教職員に指導者用タブレットと校務用パソコンを貸与した上で、保管情報のセキュリティ確保を重視し、校務系・学習系ネットワークはその用途や目的に応じて3種のネットワークコミュニティを使い分けて活用している。
 - ①校務支援システム C4th：指導要録等の法定帳簿や個人情報クラウド上で電子保管
 - ②sanba（閉域網）：個人情報や非公開情報を除くデータの保管場所
 - ③Teams（校務系・学習系両方で活用）：チームやチャンネル内でのコミュニケーション、資料ペーパーレス化・共同編集、オンライン会議等で活用
- 校務系システムを閉域網で運用しているため、教職員は学校外からのアクセスができず、柔軟な働き方が実現できない状況にある。こうした課題を踏まえ、専門家会議の提言にある「ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策」を講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの一元化を目指して、学校や村情報管理担当部署と連携して検討を進める。

2 校務支援システムのクラウド化

現在利用している C4th は境界分離型の閉域型ネットワークであり、校内でVPN回線によるアクセスのみが有効なシステムで、教職員は校務を行う場合は出勤の必要があり、長期休業期間中の在宅勤務などの柔軟な働き方が実現できない状況にある。

こうした課題を踏まえ、専門家会議の提言にある「ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策」が講じられたクラウドサービスの活用に向けて、学校や村情報管理担当部署と連携して検討を進める。

3 FAX、押印の原則廃止

教育委員会や学校では、FAXでの送受信を前提としたルールや慣例はなく、教育委員会・学校間はもとより学校・保護者においても、電子メールや汎用クラウドの活用により事務の効率化を図っている。

一方、押印を必要とする文書については、規則やルール、慣行として一部存在していることから、押印を必要としている文書の洗い出しを行い、押印の原則廃止に向けて、関係規則の改正も含めて、北海道立学校の事務を参考に取り組みを進めていく。併せて、関係事業者等に対しても、必要な働きかけを行っていく。